



教育事情



ウズベキスタン BOP層実態調査レポート

■ ウズベキスタン共和国※ — 基礎データ —

- 面積: 448,900平方キロメートル [日本の約1.2倍]
- 人口: 3,049万人 (2014年初 国家統計委員会)
- 首都: タシケント / 人口約234万人 (2013年初時点)
- 名目GDP総額: 567億9,600万ドル (2013年)
- 1人あたりのGDP(名目): 1,878ドル (2013年)
- 実質GDP成長率: 8.0% (2013年)
- 為替レート: 1ドル ≒ 2,094.99 ウズベキスタン スム (2013年平均値)

出所: JETROホームページ 国・地域別情報(J-FILE)「ウズベキスタン概況(2015年1月更新)」

※[1991年8月31日]共和国独立宣言、「ウズベキスタン共和国」に国名変更



■ 調査日 : 2015年 1月7日

ウズベキスタンにおける教育制度

ウズベキスタンは中央アジア諸国の中でも教育制度が整備されている。

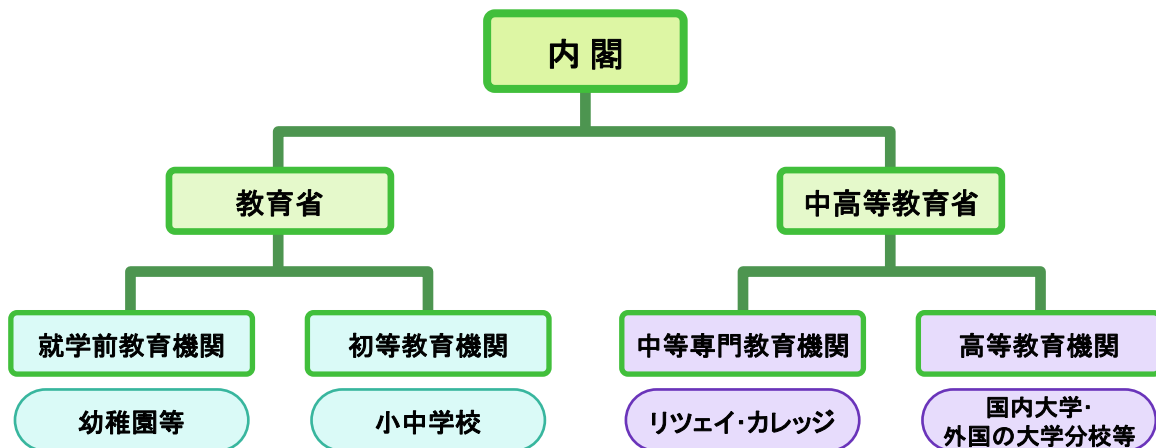
	学年等	備考
就学前教育	託児所・保育園・幼稚園等	
初等教育	小学校: 1~4学年(7~10歳)	義務教育
	中学校: 5~9学年(11~15歳)	
中等専門教育	リツエイ(一般教養高校): 1~3学年(16~18歳)	日本の高等学校に相当する。 基本的に義務教育ではないが、高等教育を志望する学生に対しては履修が必須となっている。
	カレッジ(職業専門高校): 1~3学年(16~18歳)	
高等教育	大学(学士課程: 4年間、修士課程: 2年間)	一般的には4年間の学士課程と、学士課程卒業後2年間の修士課程がある。
	Academy	特定の専門分野に関する専門学校
	Institute	ひとつの分野に限る専門学校



ウズベキスタンにおける教育制度 つづき

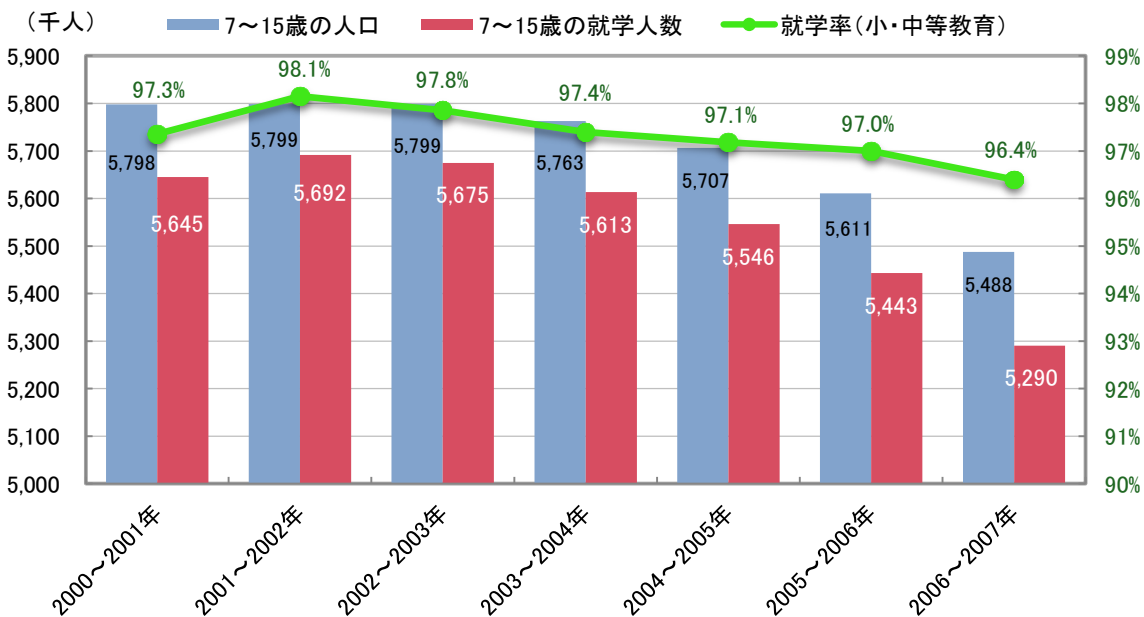
教育所管官庁

政府の教育機関に対する所管体制は、最上位に内閣があり、実際の監督運営は教育省と中高等教育省が行っている。教育省は就学前教育機関と初等教育機関、中高等教育省は中等専門教育機関と高等教育機関を所轄している。



就学状況の推移

〔就学年齢に該当する人口と就学人数、および小・中等教育の育就学率〕

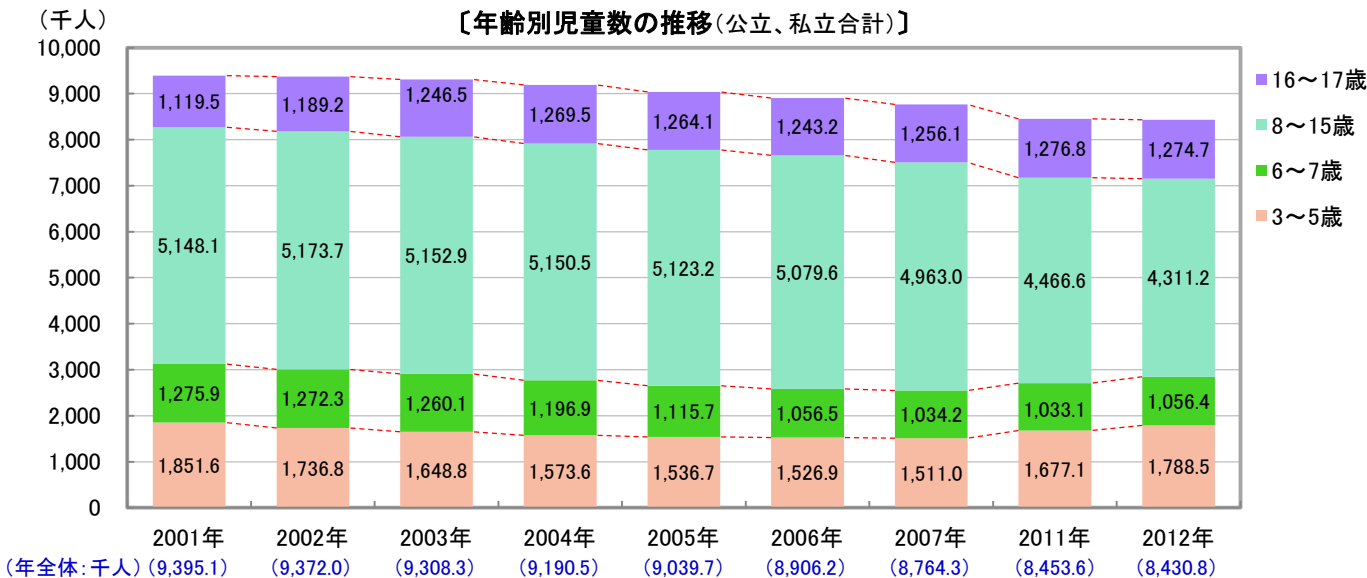


出所: State statistics comity of the Republic of Uzbekistan

注: 学年度(9月1日～8月31日)初め時点の人数



就学状況の推移 —つづき—



出所: State statistics comity of the Republic of Uzbekistan

各教育機関の状況

就学前教育

2歳または2歳半~6、7歳までの児童が対象。幼稚園等では、外国語や図画・工作、スポーツなどを教えている。その他、心身発達障がい児などのための補整訓練、リハビリ訓練などを行う施設もある。

公立幼稚園数

地域	2014年	2015年 (新設予定含む)
ジザフ州	122	189
タシケント特別市	465	480
カラカルパクスタン自治共和国	311	392
アンディジャン州	502	577
ブハラ州	338	446
カシュカダリア州	81	391
ナヴァーイー州	65	158
ナマンガン州	551	614
サマルカンド州	706	659
スルハンダリア州	280	387
シルダリア州	180	189
タシケント州	418	501
フェルガナ州	745	837
ホラズム州	141	355
合計:	4,905	6,175

公立就学前教育施設における 教員数と園児数 (2014年)

教員数	51,928人
園児数	581,539人

私立幼稚園数 (2014年)

国内総数	146
園児数	4,485人

保育時間 ※週6日保育

月~金曜日	08:00~18:00
土曜日	08:00~14:30

保育費 ※給食:朝・昼・夕の3食を含む。

居住地域	100,000スム/月
越境通園	138,000スム/月



各教育機関の状況 —つづき—

就学前教育 —つづき—



一般的な幼稚園(3~4歳のクラス)。
図画の時間で、色鉛筆で絵を描いている。



ゲームルーム。LG製テレビと中国製ビデオデッキがあり、監視カメラとベッドも備えている。

初等教育(小、中学校)

小・中学校を合わせた9年間の一貫校が中心だが、小学校のみの学校も少数ある。

1~4学年は基礎知識と5学年に進級するために必要な経験・能力を付け、5~9学年は中学生としての理解力と実用的な知識・経験を養い、専門知識を学ぶ上級校への進学に備えるためのものである。

■小、中学校数(2015年)

地域	校
ジザフ州	553
タシケント特別市	330
カラカルパクスタン自治共和国	759
アンディジャン州	751
ブハラ州	532
カシュカダリア州	1,091
ナヴァーイー州	374
ナマンガン州	684
サマルカンド州	1,217
スルハングリア州	884
シルダリア州	303
タシケント州	918
フェルガナ州	918
ホラズム州	533
合計:	9,847



イメージ



各教育機関の状況 ーつづきー

初等教育(小、中学校) ーつづきー

■ 小、中等教育主要指標 (2012～2013学年度)

● 学校数

学校	校
小中学校(1～9学年)	9,606
小学校(1～4学年のみ)	44
養護学校◆	89
総数:	9,739

● 生徒数

学年	全体の人数	女子生徒の人数と割合
1～4年生	2,025,823	981,555 / 48.5%
5～9年生	2,432,339	1,184,299 / 48.7%
9学年卒業生数	501,234	245,251 / 49.0%
総数:	4,458,162	2,165,854 / 48.6%

● 教員数

	全体の人数	女性教師の人数と割合
小学校(1～4学年)教師	112,529	100,721 / 89.5%
体育教師	24,970	6,763 / 27.1%
総数:	390,105	279,364 / 71.6%

● 授業の使用言語

言語	学校数
ウズベキスタン語	8,847
ロシア語	886
カザフ語	409
カラカルパク語	370
タジク語	252
キルギス語	59
トルクメン語	43

■ 学区

公立学校の場合、居住地域の学校に通うのが原則だが、カリキュラムや教師の人気に伴い、越境入学するケースもある。

■ 主な履修科目

小学校	数学、母国語(当該地域の言語)、自然研究、ウズベキスタン語、労働、社会、図工、音楽、体育など
中学校	経済、文学、数学、物理、生物、科学、IT、歴史、地理、母国語(当該地域の言語)、ウズベキスタン語、外国語(露語、英語、独語、仏語)、美術、労働、体育など

◆ 養護学校数

学校	校
盲学校	12
弱視児学校	2
聾学校	13
弱聴児学校	5
心障児学校	22
宿泊施設付き心障児学校	30
身障児学校	1
言語障がい児学校	1
多動性障がい児学校	3
総数:	89
(生徒総数):	(16,917人)



イメージ



各教育機関の状況 ーつづきー

初等教育(小、中学校) ーつづきー

■学費

ウズベキスタン教育法により学費は無料で、教科書のレンタル料だけが必要となっている。

レンタル料はおおよそ年額7,500(低学年)～12,200スム(高学年)。

別途クラスの備品・消耗品代、掃除代、学校の警備代等月20,000スム、学期末には教室修繕費50,000スムの支払いが必要な場合もある。

■給食

教育委員会・教育省の監督の下、民間業者(入札)が学校で調理・供給する。

〔給食メニューの例〕 ※金額は1食あたり

<セット : 3,000～4,500スム>

- スープ(牛肉・ジャガイモ・人参・タマネギ) ● 主菜(ビーフカツ)
- 副菜(ご飯もしくはマッシュポテト) ● 主食(パン)
- 果物(フルーツのコンポート) ● お茶

<単品>

- 各種ジャムパン: 500～1,000スム
- ミート・パイ: 700スム
- サモサ(ウズベキスタン風ピロシキ): 700スム



スープ(イメージ)



パン(イメージ)



ミートパイ(イメージ)

■学校の備品・文房具

液晶プロジェクターやパソコン、プリンター、スキャナーなどは入札によって調達・支給されるが、クラスで集金し、テレビやDVDを購入する学校もある。

日本製電子機器の品質と信頼性は広く知られており、日本メーカー参入の可能性は高いと考えられる。

情報出所: http://tenderweek.com/1/category-IT_and_Telco/

<http://tenders.uzreport.uz/cgi-bin/main.cgi?lan=e>

学校で使用してよい文具の標準リストはあるが、修正液や修正テープも自由に使われている。中国製が多いが、学校用に限らず品質の良い文房具への需要は大きい。

〔標準文房具リスト〕

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. ボールペン(青・赤・緑・黒) | 9. はさみ |
| 2. 鉛筆(黒・色鉛筆セット) | 10. ふせん |
| 3. 定規セット | 11. 糊(スティック・液状) |
| 4. セロハンテープ | 12. クリップ |
| 5. 分度器 | 13. ステープラー |
| 6. ホワイトボード用マーカー | 14. 水性絵の具 |
| 7. マーカーペン | 15. ノート |
| 8. 消しゴム | |



イメージ



各教育機関の状況 ーつづきー

初等教育（小、中学校） ーつづきー

■ 教師の待遇

教員の給与は等級によって異なる。公立の場合、初任給は通常約600,000スムで、熟練教員の場合は最高950,000スムとなる。待遇に不満を持ち退職する教員が多く、教育の質の低下の原因となっている。

■ 個人授業／副収入

教員たちは安い給料を放課後に教室で教える個人授業で補っている。

〔授業料一例〕

- ロシア語、ウズベク語 : 6,000 スム/人/1授業
- 数学、代数、物理 : 7,000~8,000 スム/人/1授業
- 英語、その他外国語 : 15,000 スム/人/1授業

塾は高額のため、ほとんどの生徒がこれらの授業を受けている。

■ 初等教育における課題

ソビエト連邦崩壊以降、教育制度は大きく変わったが、いまだ課題も多い。

- 教材、教育設備等の不足
- 不適切な進路指導
- 教員に対する待遇の低さ、それに伴う教員不足、教育の質の低下
- 小学部と中学部、専門学校間の連携不十分
- クラス内生徒間同士の経済格差

タシケントのおもな私立幼稚園・学校

中央アジアの中でもウズベキスタンの教育部門の発展は著しく、より良い教育を求める需要が高く、私立の教育施設の数は増加している。なお、私立の教育施設も教育省の監督下にあり、設立・運営には同省の認可が必要である。

幼稚園名	対象年齢等	授業料
Think positive	幼稚園部:3~7歳、小中学校:1~4年生向けの課外教育部の2部制	園費・授業料は概ね月850,000スム (プログラムによって異なる)
Intellect	総合教育を行う幼稚園／塾 対象:3歳~4学年(10歳)	月1,400,000スム
Zamok Znaniy	保育園:2~7歳	月900,000スム
Funny carousel	幼稚園:2~7歳	月750,000スム
Fairyland	幼稚園:1歳半~7歳	

学校名	設立の経緯・備考
Tashkent Ulugbek International School	1995年設立の公立インターナショナル・スクール。英国カリキュラムを基本とし、一部ウズベキスタンやロシアのカリキュラムを取り入れている。在校生の国籍は約30カ国と多様であり、2015年に幼稚部開設の準備している。
Tashkent International School (TIS)	男女共学の全日制国際バカロレア(IB)校。外国人ビジネスマンや外交官の家族増加により1994年に設立された。
British School	タシケント在住外国人やウズベキスタン富裕層のニーズに応じ2010年に設立。英国カリキュラムに沿った教育が行われている。
French School in Tashkent	1997年設立の中央アジアでは唯一のフランス人学校。3歳~15歳の幼児および小・中学生を対象としており、フランス国内標準の学力をつけさせることを目的としている。



各教育機関の状況 —つづき—

中等教育（高等学校、職業専門高等学校）

小中学校の義務教育修了後は、16～18歳を対象とした3年間の高等学校に進学する（任意）。この3年間は、人文科学や工業、農業など専攻分野を選択し専門的職業への進路を選ぶと共に、専門分野の基礎知識を得るためのもので、大学や単科大学への進学を目指す学生に対しては、履修が義務付けられている。

■ リツエイ（一般高等学校）

人文科学、自然科学、農業他のコースが選択できる。質の高い教員が配置され、大学の研究室や実験設備、図書館が利用出来るほか、企業等の後援を得て独自に研究施設を有するケースもある。3課程構成、2学期制。卒業時は科学の中等専門教育学位が授与される。

■ カレッジ（職業専門高等学校）

授業や訓練および、教育・訓練施設の管理運営は、学校と企業や団体等で行われる。3課程構成、2学期制。卒業時は専門分野の中等専門教育学位が授与される。

【各中等教育学校数（2015年）】

地域	リツエイ （一般高等学校）	カレッジ （職業専門高等学校）
ジザフ州	4	79
タシケント特別市	41	120
カラカルパクスタン自治共和国	10	101
アンディジャン州	12	129
ブハラ州	8	88
カシュカダリア州	7	143
ナヴァーイー州	4	51
ナマンガン州	10	118
サマルカンド州	14	174
スルハンダリア州	5	121
シルダリア州	4	51
タシケント州	6	127
フェルガナ州	12	156
ホラズム州	6	91
合計:	143	1,549

■ 中等教育における課題

- 教程が画一的
- 卒業生数に対する就職先不足
- 卒業後のフォローが不十分



イメージ

各教育機関の状況 —つづき—

高等教育(大学など)

高等教育機関は、

- **大学** : 幅広い領域にわたる知識と技能を身につける
- **Academy** : 特定の専門分野に関する教育を行う専門学校
- **Institute** : 一つの分野に限って教育を行う専門学校

の三つに分かれる。

非政府機関が大学等を開校するには、内閣傘下のState Testing Centre(STC)の認定が必要。また、追加認可等の取得により、学外研修や、地方の学生に対するITを利用した遠隔教育も実施できる。

大学の教育課程には、学士課程(4年制)と修士課程(2年制)の二つあり、修了時の国家試験により学士号・修士号が授与される。高成績者には国家模範学士の学位が与えられ、専門職につくか、大学に残って研究を続ける資格が与えられる。

〔大学等、高等教育機関数〕

高等教育機関名	校
大学	19
Academy	2
Institute	37
国内大学付属学校・分校	11
外国大学分校等	6
合計:	75

〔地域別高等教育機関数〕

地域	校
ジザフ州	2
タシケント特別市	32
カラカルパクスタン自治共和国	6
アンディジャン州	4
ブハラ州	4
カシュカダリア州	3
ナヴァーイー州	2
ナマンガン州	3
サマルカンド州	7
スルハンダリア州	1
シルダリア州	1
タシケント州	2
フェルガナ州	5
ホラズム州	3
合計:	75

■ 学費

入学試験で最高点をとった学生は、卒業後5年間政府あるいは関係機関での勤務を条件に、政府が学費を全額負担する制度がある。

〔在タシケント外国高等教育機関分校の年間学費 (2013~2014年度)〕

学校名	学士	修士	備考
Westminster University	5,220ドル	10,260ドル (全課程分)	学士:4年間 修士:2年間
Management Development Institute of Singapore	5,000ドル	8,900ドル (全課程分)	1 academic year = 15 calendar month
Turin Polytechnic University	4,500ドル	—	学士:4年間
Moscow State University	4,000ドル	—	4年または5年間。学部によって異なる。

<参考>ウズベキスタン国立大学・学士課程の年間学費は概ね、5,000,000~7,500,000スムとなっている。



各教育機関の状況 ーつづきー

高等教育(大学など) ーつづきー

■教員の給与

教員給与は、概ね800,000～1,600,000スム(月額)。教員の中では給与が高いうえに研究職の道が開け、海外滞在の可能性もあることから、大学教員志望者は多い。

■高等教育における課題

- 定員数が少なく、希望する学科に入学することが困難
- 入学や単位取得の際など、不正・腐敗が少なくない
- 新教育システムへの移行期にあるため、種々の混乱がある
- 産業界の需要と人材の教育・供給の間に不均衡がある
- 外国で取得した単位や学位の認定が円滑に行われていない

■個人指導

大学進学や海外留学のため、塾や家庭教師の需要が大きい。

海外留学希望者とウズベキスタン国内に分校を開く外国大学の増加により、TOEFL、GMAT、SAT、IELTS対策の塾も現れている。またウズベキスタン日本人材開発センター(Uzbek Japanese Center www.ujc.uz)など日本語塾も高い人気となっている。

学生を抱える家庭へのインタビュー

教育に関し、以下の3家庭にインタビューした結果を紹介する。

●Aさん一家(10人家族、月収:3,000,000スム)

子供にもっと外国語を学ばせたいと考えている。13歳の娘が将来弁護士を志望しており、担任教師が行う放課後個人授業を、1日4,000スムで受けているが、今後の学費が心配。授業言語はロシア語。

●Bさん一家(5人家族、月収:2,000,000スム)

3人の子供は公立校に通い、長男は自動車修理工を目指している。
授業言語はウズベク語。

●Cさん一家(2人家族、月収:1,500,000スム)

IT専門家を目指す息子を海外留学させたいと思っているが、学費が悩み。授業言語はロシア語。

編集後記

ウズベキスタンの教育制度は、経済、社会、国民生活と調和した教育体制への変革期にあり、数々の問題を抱え、未発達な部分も多いため、外国の教育機関がウズベキスタン進出に強い関心を寄せている。

政府は国家予算の35%を教育分野に充て、外国政府やNGO等の奨学金援助もあることから、教育分野の将来は明るいと思われる。

JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるかぎり正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロおよび執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。